

平成30年度 宮崎県立高鍋高等学校 学校評価書

重点目標	評価項目	評価指標(手段・ゴールイメージ)	自己評価		学校関係者評価	
			具体的取り組み(成果、課題、継続的な課題)	評価	具体的意見	評価
学校経営ビジョン ・生徒一人ひとりのもてる力を十分に発揮させ、生徒の自己実現に邁進する。 ・社会に貢献できるたくましい人材を育成する。 【目指す学校像】 保護者、地域、同窓会との連携による信頼される活力ある学校 【目指す教職員像】 生徒の心に火を灯す熱心な指導を展開し、自らも学び続ける教職員 【目指す学校像】 自ら求めて学び、高い志をもって、目標に挑戦し続ける生徒			評価基準 4：十分達成できた 3：概ね達成できた 2：やや期待を下回る 1：不十分であり改善を要する			
1 確かな学力の向上と進路実現	基本的生活習慣の確立	1.挨拶ができ、容儀が端正な生徒の育成 2.時間を大切に生徒の育成 3.ルールを遵守し、モラルやマナーを大切に生徒の育成	1.挨拶はおおむね良好である。校門での挨拶指導を一年間を通して継続して実施できた。 容儀が大きく乱れている生徒はいない。学年を中心とした指導が奏功している。 2.学年主任、担任の先生方によって継続的に遅刻指導を行い効果を上げた。寒くなって時間ぎりぎりの登校が増えている。 3.交通マナーで地域の方から苦情の電話がかかることがあった。特別指導を受けた生徒が今年度は6名いた。携帯電話の持ち込みやSNSへの書き込みで指導を受ける生徒が増加している。生徒が良い行動をしてお礼の電話をいただくこともあった。ルールの遵守については、学級や集会時に呼びかけを行っているものの全員に浸透させるのが難しいが粘り強くやりたい。	3.28	・元気な挨拶が出来る生徒が多い。 ・挨拶は他校に誇れるくらい素晴らしいと感じている。 ・挨拶は一生大切にしなければならない道徳の一つだと考える。継続指導をお願いしたい。 ・服装容疑についても全く問題ない。 ・駅と学校間の自転車の運転マナーに問題がある。(2列走行など) ・携帯電話については、遠方からの通学生生の必要性も今後の課題と考える。 ・SNSの活用については継続した指導をお願いしたい。 ・嫉は家庭の責任で行うべきと思うが、学校にどこまで求めてよい判断が難しい。	3.78
	学力の向上	1.基礎基本の定着 2.主体的に学習する力の育成 3.定期考査欠点保有者の減少 4.読書の充実 5.探究活動の充実	1.○生活の記録の継続が学習習慣の定着に繋がっている。45分授業のため、授業で教える内容の精選が基礎基本の定着に繋がった。 2. BUタイムは個人の取り組みの差が大きい。しっかり取り組んでいる生徒は主体的に身につけ、良い効果が表れている。3年生は主体的にBUタイムを有効活用できていた。 3.学習定着指導により成績が低い生徒の意欲を高めるとともに、個別指導を継続して行うことで欠点を解消することができた。部活動顧問との連携を密にする必要がある。 4.朝の読書はおおむね良好であった。蔵書の充実やピリオパトル大会の開催により興味関心を喚起し、貸し出し冊数を増やすことができた。 5.探究コース2年の課題研究発表を1年生が聴けたことは次年度の研究に効果が大きい。また、コンテストに意欲的に挑戦させ、高校生国際シンポジウムポスター部門では優秀賞を獲得した。2年普通クラスのプチ探究活動でも生徒の意欲的な取り組みが見られた。		・BUタイムは生徒一人ひとりと向き合っって個別指導が出来るので良いことだと思う。 ・BUタイムの活用をはじめ、先生方の工夫改善が積み重ねられており、高く評価できる。 ・新聞を購読しない世帯が増える中、「朝の小論文」の取り組みは素晴らしい。こういうことがきっかけとなり将来の力になる。 ・朝の読書を通じて将来につながる出会いがあるかも。さらにピリオパトル大会を通じて良い本が広まり読まれることはとても良い。 ・普通科対象の探究学習は、行政・企業の若手職員・社員をメンターとして配置して来校してもらい、生徒にリアルな社会の視点を入れることが大事だと思う。その橋渡し役として高鍋町のキャリア教育支援センター等を活用すると良いと思う。 ・探究コース2年生の研究発表を普通科1年生が聴くことはとても良い取り組みだと思う。 ・これまで普通科に特徴ある教育が見つけられなかったと感じていたが、探究科学コースで培ったノウハウを普通科に広げていく計画は大いに期待したい。	
	進路実現	1.朝夕課外、土曜講座の有効活用 2.面談を活用した生徒理解と早期目標設定 3.学力検討会・志望校判定会の充実 4.小論文・面接の組織的指導の強化 5.国立大学合格者数80名の達成 6.難関大学及び医学科合格者の輩出 7.就職率100%の達成	1.課外や土曜講座の各教科の時間数や時間割等に柔軟に対応し、学習の削減と負担の均等化を図る必要がある。 2. BUタイムの活用で好機を逃さず面談ができた。また、早期面談で具体的に進路目標を立て、個々に応じて早めの取組ができた。 3.学力検討会、模試についてPDCAサイクルを生かした分析・実践に改善し、学力向上に繋げていくことが望まれる。 4.○推薦・AO入試の小論文や面接の指導を全職員で組織的に実施し効果を上げることができた。(合格率5割弱 平均2、3割)「朝から小論文」を継続して取り組んだことも力になった。 5.○国立大学前期日程の結果が出た段階で現役合格者は6名でここ7年間の最終の数で比較しても最高の実績である。これから中後期日程の合格も出るのでどこまで伸びるか楽しみである。 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 46 42 38 58 59 55 49 6.○九州大学に2名合格した。早期から難関大学受験を意識させ、個別指導等により高い学力の養成を図ることが奏功した。他に確実に合格できる生徒が2名いたが、他大学を受験したので最後まで志望を貫く意思を持たせることも今後は必要である。今年度は就職希望が多かったが、最後の一人が合格できるまで職員で協力して指導し、9年連続就職率100%を達成できた。		・国立大学の現役合格者がここ数年で最高の実績を上げたことは高く評価できる。進路選択の際、大学進学の実績が重要な要素となるので今後も地道な努力を続けて欲しい。 ・2020年から導入される大学共通テストにいち早く対応し、これからも生徒の進路実現につなげてほしい。 ・毎年の工夫の積み重ねにより学力が向上し、結果につながることを期待したい。	
	キャリア教育の充実	1.各種講演会の充実 2.キャリア教育関係行事の充実 3.オープンキャンパス参加の奨励 4.インターンシップによる職業意識の高揚 5.検定挑戦の奨励と合格率アップ 6.外部機関等の活用	1.進路講演会等を適切な学年や時季をとらえて実施できた。大学生など生徒に年齢の近い卒業生の活用も検討したい。 2.進路ガイダンス(1年次)、高鍋わくわく講座(1年次)、大学出前講座(2年次)等を企画して実施した。同時に外部の進路説明会や企業説明会にも積極的に参加させ、進路意識の高揚を図ることができた。 3.2年次までに全員オープンキャンパスへの参加を勧めている。生徒は意欲的に参加したが、事後指導に改善が必要である。探究コースは九州大学のオープンキャンパスに1・2年合同で参加し、難関大学を目指す意欲の向上に繋がることができた。合格発表等も見せられるとさらに刺激になると考える。 4.2年生活文化科のインターンシップは事前事後指導を含めて生活文化の授業と連携し、職業観を醸成する良い取組となった。 5.英検へのチャレンジする生徒が増えた。探究コースの英研2級合格者 3年33名、2年10名 生文生情科では難易度の高い級を受検者に対して放課後等を有効活用して指導を行い、合格を支援できた。 6.今年度、高鍋町、高鍋町商工会、高鍋農業高校と地域包括連携協定を締結した。積極的に活用できるように検討していきたい。		・キャリア教育のさらなる推進のため、町や商工会議所との協定締結はとても良い取り組みだと思う。 ・企業や大学と様々な連携を行っており、生徒の進路決定や学習意欲の向上に大いに役立っている。近年は県内就職を推進しており難しいと思うが、県外の大企業や先端技術の研究機関との連携も検討の余地があるのではないかと。 ・進学や就職が決まってそれぞれが一步を踏み出した後でも途中で挫折してしまう生徒がいるので、そうならないためのキャリア指導とそうなったときの支援をお願いしたい。卒業後も頼りにできる信頼関係を築いてもらえるとうれしい。	
2 教職員の資質向上	授業力の向上	1.教師の指導改善 2.生徒による授業アンケートの活用 3.校内授業研究の実施 4.新共通テストに向けての研究・実践 5.宮崎大学との連携の充実 6.難関大学レベルの教科指導力養成	1.○各学年の教科担当どうして授業の進度、課題の提示、テストの出題等について意見交換しながら指導にあたっている。 2.○年間2回生徒による授業アンケートを実施したが、ほとんどの教師が良好な評価を得ている。反面、少数ではあるが評価の低い教師もいる。管理職の支援のもと改善中である。 3.○校内授業研究では教科を超えてグループを編成し、テーマに応じて教科横断的取組を行い、深い学びの在り方を共有できた。 4.2年後の大学入試共通テストに向けて、教科によって差はあるが、プレテスト問題の分析を行って授業改善や定期テスト問題の作成に活かす取り組みを進めることができた。 5.朝課外や土曜講座の時間に宮崎大学の先生方に来ていただき1年探究コースを中心にアクティブラーニング型の思考力・判断力を高める授業をしてもらった。生徒だけでなく教員にとっても得るものが大きい取り組みになった。 6.個人的な取り組みにとどまり、教科全体へは広がっていないので次年度の継続課題としたい。	3.10	・教科横断的授業を通して指導改善に取り組んでいるのは先進的であり、素晴らしいと思う。 ・宮崎大学との連携が普通科にも広がっていくことを期待している。 ・少数ではあるが、授業アンケートで生徒の評価が低い教師がいる。学力向上には授業力向上が必要不可欠であるため管理職のリーダーシップに期待したい。 ・教科担当どうしての授業研究、教科を超えての協議などが授業改善につながっており、生徒アンケートにおいても高い評価を得ている。 ・校内だけでなく、宮崎大学など校外の教育機関とも連携を図り指導力の向上に努めていることは大いに評価できる。 ・教職員の働き方改革についても取り組む必要がある。	3.35
	危機管理やコンプライアンス意識の高揚	1.危機管理意識の高揚と危機管理体制の充実 2.災害時の対応の向上 3.コンプライアンス意識の高揚	1.様々な問題や事故、災害を想定し、適切に行動できるよう危機管理マニュアルの確認と見直しを随時行う必要がある。 2.日程変更不可の他の行事と重なり、防災訓練が1回しか実施できなかった。次年度は2回実施し、避難経路や教職員の連携について確認し、冷静に対処できるようにしたい。 3.○不祥事が起こりやすい時期や他で起こったときに合わせて管理職が注意喚起を行った。 ○外部講師を招いて、救急法講習会やコンプライアンス研修を実施し、職員の意識の高揚を図った。 ○アルコールチェッカーを購入し、酒気帯び運転厳禁の意識強化を図った。教職員どうして注意し合える雰囲気構築したい。		・東日本大震災から8年が経過し、記憶は薄れ印象が弱くなったとの声もある。効果的な防災訓練の実施により危機管理意識の高揚を図って欲しい。 ・災害時の対応は保護者への協力と意識向上の呼びかけも必要である。 ・危機管理マニュアルの確認と防災訓練の実施は優先して欲しい。 ・危機管理やコンプライアンスについては万一事件や事故が発生すると多大な労力が必要であるため生徒に刻むべき時間が奪われる。一部に課題があるので確実に実施してほしい。 ・どんなに備えていてもそれを上回る災害は起こり得る。小丸川に近いこともあり、日頃からの備えと対応をお願いしたい。	
	人権意識の高揚と心の教育の実践	1.教職員の人権意識の高揚 2.組織的な人権教育・指導の充実 3.多様な生徒への対応や教育相談の充実 4.師弟同行による生徒の育成	1.人権教育についてワークショップ型職員研修を実施した。これにより、男女混合の出席番号を取り入れる機運が高まった。 2.○LHRで人権教育を複数回実施した。授業担当者で事前研修と打合せを行い、有意義な授業を行うことができた。 いじめやからかいが人権を侵害する行為であることを学級での指導や教育相談などにより継続して啓発しているが、根絶には至っていない。粘り強い指導が必要である。 3.○各学期で教育相談アンケートを実施し、生徒の悩みの解消やいじめ事案への対応を迅速に行うことができた。 ○発達障害等の問題を抱える生徒に対しては、ケース会議を開いて情報を共有し、教育相談部を中心に組織で対応することができた。また、生徒の状況に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部専門機関等に繋いで連携しながら対応したことでより良い方向にもっていくことができた。 4.行事や清掃活動に教師と生徒が一緒になって取り組み、信頼関係を深めていく関係づくりを今後も学校全体で進めていきたい。		・人権教育についてワークショップ型職員研修を取り入れるなど工夫がなされている。 ・人権を尊重する心は、いじめやからかいを防止するだけでなく、人権意識の高まったこれからの社会を生き抜く必須のスキルであるので、生徒の心に響く教育をお願いしたい。	

3 地域に信頼される活力ある学校づくり	学校行事 生徒会活動 部活動の 活性化	<p>1. 委員会活動、各種行事の充実</p> <p>2. 部活動の加入率アップと活性化支援</p> <p>3. 文武両道に真摯に努力する生徒の育成</p>	<p>1. 新入生オリエンテーション、歓迎遠足、鳴海ヶ丘祭など、生徒実行委員会と生徒会執行部を中心に準備や運営を行い、生徒の主体性を育むことができた。</p> <p>2. 部活動の加入率は1年生が94.0%、2年生が93.1%、3年生が92.9%で全体で93.1%である。(昨年度は95.8%)5月までの段階での1年生の入部がスムーズであった。今年度も多くの部が県大会で上位入賞をおさめ、九州・全国大会への出場をはたすことができた。 高体連・高野連・高文連県大会優勝・最優秀賞 ラグビー部、ホッケー部、ボート部、剣道部(個人)、野球部写真部(個人)、将棋(個人)、高文祭テーマ(個人)</p> <p>3. 部顧問、学級担任、教科担任の連携を強化し、学習と部活動の情報共有を行って文武両道を支援する体制づくりが必要である。</p>	<p>・部活動の加入率が前年度を下回っている。高鍋高校の生徒は文武両道がふさわしいと思っているので、加入率アップの取り組みを継続して欲しい。</p> <p>・生徒会や部活動などは活発に行われており、大いに評価できる。</p> <p>・文武両道に努力する中で秀でた部分を将来どう生かすかを生徒自身が見つけ出せるようにしてもらいたいと考えている。</p>		
	地域・保護者及び小・中学校との連携強化	<p>1. 授業公開の実施と参加数増加</p> <p>2. 中学校との連携の強化</p> <p>3. 小学校との連携の実施</p> <p>4. 地域に貢献できる生徒の育成</p> <p>5. 地域人材や企業の積極的な活用</p> <p>6. PTA活動の活性化</p> <p>7. 保護者との連絡体制の整備</p>	<p>1. 授業公開は361名の参加があり、昨年度より70名増えた。特に中学生が100名以上参加してくれて良いアピールに繋がった。</p> <p>2. 年2回の中学生学力アップセミナーに加え、近隣3中学校で訪問授業を実施し好評を得た。また今年度から中学2年生向けのハイレベル講座を実施し、生徒の満足度が高かった。次年度は教員の負担にも配慮しながら、さらに効果のある取り組みにしたい。</p> <p>3. 今年度初めて町内の小学校と交流会を実施した。中学進学時の生徒流出を食い止めるためにも良い取り組みになった。</p> <p>4. 1回目の学友団活動は台風で中止となったが、3月下旬の実施に向けて、生徒を中心に準備中である。ボランティアへの参加はとも意欲的で、都農尾鈴マラソン、舞鶴マラソン、高鍋駅活性化ボランティアなどで活躍してくれた。</p> <p>5. 主権者教育、健康講話、人権教育、消費者教育、生文生情科の多様な講座(ウォーキング、ブーケ作製、お茶の淹れ方、お魚料理など)で地域の専門家を招き深い学びに繋げることができた。</p> <p>6. PTA総会の参加率は、二次集会を合わせて91%であった。PTA奉仕作業には359名の参加があり、鳴海ヶ丘祭前の校内美化に大いに貢献していただいた。次年度は鳴海ヶ丘祭の日程が変更になるが、今年度と同時期に開催したい。 11月にPTA視察研修(九州保健福祉大・南九州大・宮崎産業経営大視察)を行い学ぶべき点が多く有意義であったが参加者が今年も少なかった。見直し・検討が必要である。 年間2回PTAと教職員、警察との合同交通指導を実施し、遅い時間にもかかわらず多くの方に協力いただいた。</p> <p>7. 緊急時の連絡用に保護者にメールの加入を呼びかけているが、加入率が60%程度しかなく活用しにくい状況である。次年度は100%を目指し連絡体制の強化を図りたい。</p>	<p>・地域や小中学校などと様々な連携が行われており、授業公開の参加が多くなるなど成果が出ている。</p> <p>・中学校との交流に比べて小学校との交流にも着手されており、小高連携を積み重ねていくことで高鍋高校の志願者も増えていくことだと思う。ただ、結果につながるのには3、4年先になるので、途切れることなく継続していくことが大事なことだと思う。</p> <p>・先生方の負担は大きいと思うが、生徒流出を食い止めるためにも小中学校との連携強化の取り組みに努力してほしい。</p> <p>・種々の取組を行っているにもかかわらず受験者数の向上につながっていないが、不断の努力で向上につなげてほしい。</p> <p>・外部専門家(弁護士、警察、臨床心理士など)から積極的に力を借りることはもっと広げていくべきだと思う。</p> <p>・保護者のメール加入率の向上が必要だと考える。緊急時の連絡ができないのは大変なので、PTA総会時にその場で加入させることができるとよい。</p> <p>・地域とのコミュニケーションや小中学校とのつながりを大切にすることで高鍋高校も支えてもらえるので、連携強化は大切にすべきである。保護者との連携もさらに強化できるとよい。</p>	3.19	3.47
	広報活動や情報発信の充実	<p>1. 生徒募集活動の充実</p> <p>2. 多様な情報発信と内容の充実</p> <p>3. PTA広報活動の促進</p>	<p>1. オープンスクールは554名(中学生358名)の参加があった。生徒主体で運営し、探究科学科と生活文化科が学科独自のPRを行った。アンケート結果から参加者の満足度も高かった。中学校主催の高校説明会や塾訪問を通して3学科体制とキャリア情報クラスの新設について積極的に説明を行った。 パンフレットとポスターの完成が遅くなり効果が薄れた。 入試の志願者が定員割れした原因を探り、次年度に繋げたい。</p> <p>2. 新聞・TV・雑誌等の各メディアや広報誌「明倫」を活用して積極的に学校の取り組みを地域にPRできた。 学校ホームページのこまめな更新ができなかった。運営体制の改善整備が必要である。</p> <p>3. 年間4回PTA新聞を作成・発行することができたが、保護者と教員の連携の在り方や発行回数等について検討が必要である。</p>	<p>・ホームページのこまめな更新が出来なかったとあるが、フェイスブックによる情報発信には努力されている。</p> <p>・オープンキャンパスの参加は多いが、定員割れになるのはまだまだ魅力が伝えられていないのではないかと。</p> <p>・PTA新聞の作成方法や内容については検討が必要である。</p> <p>・いろいろな広報活動がなされており、特に新聞に多く取り上げられている。今は「インスタ映え」などのようにイメージや見た目で見断される時代であるので、イメージ戦略も必要である。</p> <p>・生徒たちが高鍋高校の魅力を意識をもって後輩達にアピールしてほしい。</p>		